



上) 南側からの外観。室内のダイナミックな空間とは対照的に、高さを抑えた落ち着いた佇まいになった。中庭を囲う板塀と玄関の目隠しとして建てた列柱でプライバシーを確保し、外部からの視線を遮っている。和室の窓には開閉出来る格子窓を取付け、日射の調整や通風などの目的と合わせてこの家のアクセントとなっている。

2P) 『爽の家』の中心的空间のダイニングキッチン。屋根勾配を利用し吹き抜けに。開放的な空間の中に和室や玄関が続く。西面のハイサイド窓には太鼓障子を取付けた。西日対策と合わせて空間の核となり、優しい雰囲気を出している。

敷地近くの新金谷駅はS1機関車の始発駅として有名で、最近では機関車トーマスの人気も高まり、休日にはたくさんの方々が車で賑わいを見せている地域です。建築地は、元々企業誘致のために開発された区画整理地でしたが最終的には住宅地として区画され、ゆとりのある広さで整備されていました。Nさんご夫婦はご主人の仕事の関係で東京都に住んでいましたが、家づくりを考え出した頃から奥さんのご実家が近い旧金谷町で暮らしたいと考えていたと伺いました。東京に住みながらの土地や建築業者探しは時間がかかり、足踏みをした時期もあったと聞きましたが、川に向かった南向きの良い敷地に巡り会いこの場所での家づくりを決めました。Nさんと私が出会ったのは今から3年ほど前の春でした。奥さんが帰省された時にご連絡をいただき、事務所で色々とお話したことを覚えています。その後、ご家族で私の自宅を見ていただき

たり、希望に近い新築のお宅を見ていただいたりしながらお話を重ね、設計を任せていただくことになりました。

建築地は南向きの正方形に近い矩形で十分な広さがありました。また、全面道路を介して川があり、その向こう側には山並みが見えるとても開放的な敷地でした。これだけ恵まれた敷地ならば、開放的に暮らす平屋的なプランが良いということになり、敷地全体を使ったゆとりのある計画をさせていただきました。L型プランで中庭を囲んだ間取り」ということまでは順調に決まりましたが、玄関をどの位置に配置するかという事で悩み、最終的には和室と玄関を重ねた民家型の配置となり、地域の方が気軽に訪ねて来やすい道路近くの位置に配置しました。玄関を入ると左手に和室があり、ご近所の方が訪ねて来た際に腰掛けて会話出来るように少し小上がりになっています。和室とつながった雰囲気のある玄関ということで、土間の仕上げに木目調の洗出し仕上げやタイル貼りなど、いろいろな案がありましたが、奥さんのアイデアを取り入れてアンティーク調のレンガを敷き詰める事になりました。和の様式の中に洋の仕上がりとなり、現代の暮らしに合った新しい雰囲気のある玄関になったと満足しています。

家づくりと暮らしづくり

完成現場報告

島田市／『爽の家』

文・写真／ココラボ 山崎健治

新年が明け、2016年がスタートしました。今年はとても暖かで晴天続きの新年を迎え、春の訪れが例年より少し早いかもしれない。木の家は冬の間でも太陽の光が差し込むと暖かく、壁や天井、床などの木材が温められ、日中はとても心地よい空間になります。昨年の年末に撮影で訪れたNさんのお宅も大きな窓から太陽の光が差し込み、明るく暖かなお宅だと感じました。Nさんにお話を伺うと、休みの日は家族でのんびりと過ごす事が多くなってきたと話してくれました。『爽の家』と題して家づくりを行わせていただいたNさんのお宅は、一昨年の11月に完成し、二年目の冬を迎えています。新しい地域での暮らしにも慣れ、ご近所の方々とともに仲良くおつきあいをさせていただいていると笑顔で話してくれました。また、新しい暮らしでの楽しみとして設置した新ストーブの扱いにも慣れ、毎日暖かく過ごしていると喜んでいただいています。今回の完成現場報告では、暖かく開放的に暮らすNさんの暮らしぶりと共に、時間を掛けてこだわった『爽の家』の工夫や特徴をご紹介します。

地域と触れ合う民家型プラン

『爽の家』は、島田市に流れる大井川の西側に位置する旧金谷町に建築されました。





広間の中心に置かれた薪ストーブ。日中は冬でも陽が差し込むとともに暖かな室内になるが、夜は薪ストーブを焚いて木の家を暖めている。薪ストーブはドブレ社の640CB。正面に加えてサイドに扉があり、薪の投入も便利と好評。



音楽コーナーに置かれた楽器。ピアノやギター、ボンゴも。広間の一角に設けられているため、気軽に音楽を楽しむことができる。広間と音楽コーナーとの仕切りにカウンターを設け、TVの周辺機器やお子さんのゲームなどもこの場所に置かれてTVと繋がっている。広間のシンボル柱は山桜を使用し、柱を中心とした木組みのダイナミックさもこの家の大きな特徴。



台所は二の字型のアイランドキッチンとした。シンクとコンロが離れているが二人で作業するときなどは適度な距離感で動きやすい。アイランドキッチンは広い作業スペースや、多方面からの収納を確保することができる。



和室には奥さん希望の堀座卓を製作し、コタツとしても利用できるように工夫した。テーブルは床下に収納することが出来るため、夏場などにはフラットの和室として客間などにも利用できる。窓際にはいつも植物が飾られ、来客を楽しませてくれている。



ダイニングキッチンと玄関、和室が一体となった空間。それぞれの空間は障子や襖でつながりを調整でき、来客に合わせてちょうど良い仕切りをつくっている。玄関と和室には60cmの段差を設け、靴収納を兼ねた踏み台を介してつながりをもたせた。和室とダイニングとの段差は、引出し収納となっている。

彩を添えた毎日の暮らし

玄関はダイニングキッチンともつながり、毎日の暮らしそのものがこの家の顔として隠さずオープンにしています。暮らし始めるまでは少し心配もあったようですが、暮らし始めてみると使いやすく、家事をしながらいろいろな事に気を配れると話してくれました。突然の来客の際は玄関とダイニングの間の障子を閉めて和室と玄関をつなげたり、ご近所の方やご両親が来た時は、建具を全てオープンにして開放的に利用したりとその時々で変化させて利用しています。キッチンからは中庭や広間の薪ストーブも直接見る事が出来るので、使いやすさと共に癒しの場所にもなっているようです。キッチンがオープンという事は、毎日の生活そのものが全て見えるという事。キッチンのゴタゴタが他から見えるのはちょっと気になるという方もいますが、あえてオープンにする事で、毎日の暮らし方や生活道具にも関心が高まり、彩りを添えた日常になったと生活を楽しんでいるようです。

Nさんのお宅に伺うたびに、鮮やかでセンスの良いお花や鉢植えをはじめ、雰囲気の良い生活雑貨が増え、暮らしそのものを楽しくしてくれているようで嬉しい気持ちになります。先日も玄関や和室にたくさん植物が飾られ、来客を楽しませてくれる装いの中に和やかな雰囲気を感じました。

五感を通じて感性を育てる

『爽の家』は、L型の中心にダイニングキッチンがあり、玄関の対角方向に広間、寝室が続いて配置されています。広間は10帖程の大きさを確保し、中心には憧れの薪ストーブを配置しました。Nさんの選んだ薪ストーブはドブレ社の640CB。クラシックな外観ですがメンテナンスや操作もしやすく、人気の高い機種です。広間の一番のこだわりは大きな木製窓。玄関からL型に5枚続きとなり、それぞれの窓に、障子、ガラス窓、網戸、雨戸が取り付けられています。全ての建具は2箇所の戸袋の中に収納出来る仕組みとなっており、季節や天候、用途に合わせて自由に出し入れ出来る納まりとなっています。また、大きな窓を通して中庭や遠くの山並みを見る事が出来、とても開放的で眺めの良い空間です。

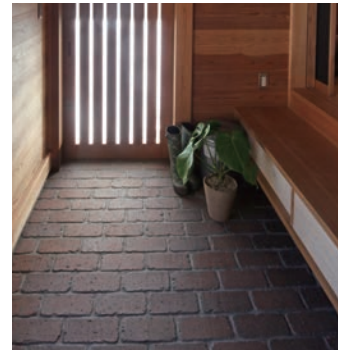
ダイニングと広間の間にはピアノやギターなどを楽しむ音楽コーナーを設けました。音楽の好きな方の中には、防音室などの個室を希望される方もいますが、Nさんは、家族誰もが気軽に音楽を楽しむ事が出来るようにという希望で、あえてオープンな空間に配置しました。写真撮影の際もご主人がギターを取り出し娘さんのために弾いてあげていました。娘さんはまだ赤ちゃんですが、お父さんの弾くギターの音が大き



広間全景。片流れの屋根形状を利用し、開放的な吹き抜け空間としている。山桜のシンボル柱や屋根を支えている登り梁など、家の架構がそのまま現れている。架構がそのまま部屋のデザインとなり、装飾を省いた無駄のないシンプルな空間をつくっている。

『爽の家』を彩る 仕上げと工夫

ココラボのオリジナルアイテムに加えて、『爽の家』では新しい仕上げや工夫がいっぱいです。時間をかけてNさんと共に作り上げた細部と共に、ココラボの新しい試みを紹介したいと思います。



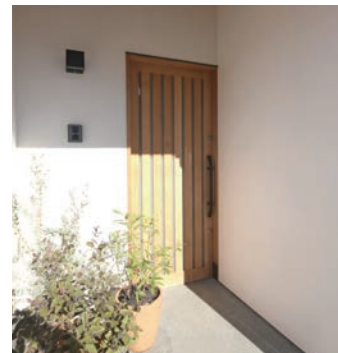
玄関床仕上／アンティーク調のレンガを敷き詰めた玄関。建具からの光が表面に陰影をつくり、独特の雰囲気。



靴箱付踏台／和室への踏台。座って靴を履いたり、ちょっとしたおしゃべりも出来るように広めの玄関としている。



浴室／通信57号の表紙で紹介した『爽の家』の浴室。縦長の窓はコーナー窓になっており、下部がFIX、上部が通風窓になっている。脱衣室との壁をガラス棚の腰壁とし、明るく開放感のある浴室となった。



玄関ポーチ／アトリエプラトーさん製作のアイアンバーを取り付けた玄関引戸。外壁の漆喰壁とマッチしている。



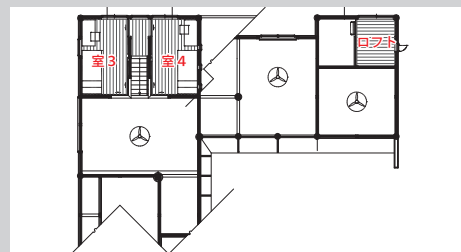
通風格子窓／アルミサッシが見えない工夫がされ、格子窓を開めたままで通風でき、キッチンのポイントにもなった。



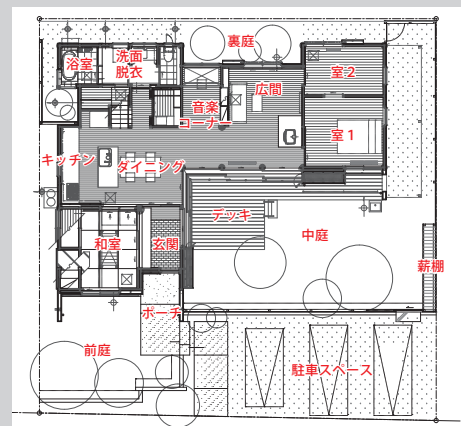
鉄足／ナラのダイニングテーブルに合わせた鉄足。市販品で手頃なコストのため、見た目以上の安価で製作できた。



洗面化粧台／既成の洗面カウンターを使用したオリジナルの洗面台。空間の広さに合わせて調整することが出来る。



2F平面図



1F平面図・敷地図

仕様内容

家族構成	家族5人
敷地面積	317.22㎡
建築面積	101.03㎡
延べ床面積	120.90㎡
構法	在来工法
屋根	ガルバリウム鋼板タテハゼ葺き
外壁	ガルバリウム鋼板角波タテ貼、一部漆喰コテ押え
外部建具	木製オリジナル建具 ナラ、ヒバ ペアガラス、アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	化粧野地板現し 杉板本実張り 厚30mm
壁	杉本実張り 厚12mm 漆喰壁、青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm
床	山桜本実乱尺張り 厚15mm 杉本実板張り 厚30mm 青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm
内部建具	オリジナル木製建具
キッチン	ステンレスヘアライン天板オリジナルキッチン
洗面化粧台	TOTO 人工大理石天板オリジナル洗面化粧台
浴室	壁・壁：サーモタイル300角貼
薪ストーブ	ドブレ CB640
設計者	山崎健治
施工	有限会社こころ木造建築研究所
竣工	平成26年11月

家づくりはまだこれから

好きなようで、一緒に歌っているようにも聞こえました。音楽が身近にある暮らしは、木の家や薪ストーブと合わせて、娘さんをはじめ2人の息子さんにとっては当たり前の日常になるのですね。感性豊かなお嬢さんに育っていくと嬉しいです。

『爽の家』は、完成してから一年が過ぎました。地域の方々との交流や木の家にも慣れ、四季を通じての暮らしの様子もわかり始めてきたと思いますが、Nさんのお話を伺っていると、まだこれから形にしていきたい事がたくさんあり、家づくりはまだまだ続いていると感じます。3つのお庭のそれぞれの構想や薪置き場の拡張。広間に置きたい家具やインテリアにも夢を膨らませています。お話を聞くたびに私もワクワクし、Nさんと一緒にまだまだこの家をつくり上げていきたいと感じます。揃えようと思えば何でも気軽に集める事が出来ると思いますが、ひとつひとつ吟味し、「長く使えるかな?」「この家に似合うかな?」など、じっくりと考えている時間も楽しんでいるように感じます。お子さんの成長と共に時間をかけてゆつくりと考えていくのもいいですね。私も相談が来る事を楽しみにしながら、じっくりとこの家とおつきあいさせていきたいと思います。